

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自らが考え、自己表現ができる 当たり前のことを当たり前にできる	・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を年1回開催。 ・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。	・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を年1回開催。 ・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。	・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を年1回開催。 ・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。
確かな学力の育成	思考力・表現力を高め 粘り強く解決に向かうことができる	①算数科の授業の工夫改善 ・問題解決学習に関する研究推進、研究授業の実施 ・指導法の統一 ・ノート指導についての交流・研究 ・少人数、習熟度別指導の工夫充実 ・毎日計算プリントの実施 ・思考力を高めるためのチャレンジプリントの実施 ・市教研算数部の診断テストから見えてきた課題に焦点をあてた授業実践の交流・研究。 ②コミュニケーション力の育成 ③読書活動の活性化 ・図書館支援員、図書ボランティアと連携した取り組み ④家庭学習の定着 ・生活ふり回りカードの実施による家庭への啓発。	①授業の工夫改善 ・算数科における問題解決型学習の実践 ・効果的なノート指導の研究 ・少人数、習熟度別指導の工夫充実 ・毎日計算プリントの実施 ・思考力を高めるためのチャレンジプリントの実施 ・市教研算数部の診断テストから見えてきた課題に焦点をあてた授業実践の交流・研究。 ・国語科における実践の交流 ②コミュニケーション力の育成 ・各教科における主体的・対話的な深い学びの指導実践の交流 ③読書活動の活性化 ・図書館支援員、図書ボランティアと連携した取り組み ④家庭学習の定着 ・生活ふり回りカードの活用	①授業の工夫改善 ・算数科における問題解決型学習の実践 ・効果的なノート指導の研究 ・少人数、習熟度別指導の工夫充実 ・毎日計算プリントの実施 ・思考力を高めるためのチャレンジプリントの実施 ・市教研算数部の診断テストから見えてきた課題に焦点をあてた授業実践の交流・研究。 ・国語科における実践の研究 ②コミュニケーション力の育成 ・主体的・対話的な深い学びの指導実践の交流・研究 ③読書活動の活性化 ・図書館支援員、図書ボランティアと連携した取り組み ④家庭学習の定着 ・生活ふり回りカードの活用
豊かな人間性を育む	豊かな人間性を育む 自分たちを大切に助ける	互いを認め合い、いきいきと活動できる児童の育成。個性を生かし、発見や気づきを大切に人権教育。国際理解教育・平和学習・男女共生教育・ともに学び共に生きる教育	互いを認め合い、いきいきと活動できる児童の育成。個性を生かし、発見や気づきを大切に人権教育。国際理解教育・平和学習・男女共生教育・ともに学び共に生きる教育	互いを認め合い、いきいきと活動できる児童の育成。個性を生かし、発見や気づきを大切に人権教育。国際理解教育・平和学習・男女共生教育・ともに学び共に生きる教育
健康・体力の増進	運動する楽しさを味わい、自ら進んで運動に組むことができる	①体育の準備運動として茨木っ子運動、茨木っ子運動IIの活用。 ②マラソンカード、なわとびカードの配布・活用 ③体育委員が製作したなわとびDVDの活用。 ④授業におけるワークシートの活用の交流 ⑤全学年でスポーツテスト実施 ⑥系統的な水泳指導	①体育の準備運動として茨木っ子運動、茨木っ子運動IIの活用。 ②マラソンカード、なわとびカードの活用 ③体育委員が製作したなわとびDVDの活用。 ④ワークシートを使った効果的な実践の交流・研究 ⑤全学年でスポーツテスト実施 ⑥系統的な水泳指導	①体育の準備運動として茨木っ子運動、茨木っ子運動IIの活用。 ②マラソンカード、なわとびカードの活用、実践交流 ③体育委員が製作したなわとびDVDの活用。 ④ワークシートを使った効果的な実践の交流・研究 ⑤全学年でスポーツテスト実施 ⑥系統的な水泳指導
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

やや課題が残る結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

国語A

敬語表現ができていない。→普段の生活や授業の場面でも敬語を意識して使うようにする。

主語、述語などの文章構成が合っていない。→言葉の学習（言語事項）に取り組む時間を作り、授業の組み立て方を考える。

文章のつながりの不自然さに気づけない。→普段から授業中の話し方や作文で間違いを指導していく。

国語B

条件作文が苦手と感じられる。→低学年から系統だてた「書く力」を育てる取組みが必要。

授業や課題で作文を書くときに文章構造などを押さえ、適切な指導を継続して行う。

与えられた情報を分析し、まとめる力を付けるため『要旨をまとめる』『要約する』授業を行う。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

① 数と計算

概ね良好な結果であった

② 量と測定

概ね良好な結果であった

③ 図形

やや課題が残る結果であった

④ 数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

① 選択式

やや課題が残る結果であった

② 短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

算数B

(領域ごと)

① 数と計算

概ね良好な結果であった

② 量と測定

概ね良好な結果であった

③ 図形

概ね良好な結果であった

④ 数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

① 選択式

概ね良好な結果であった

② 短答式

概ね良好な結果であった

③ 記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

グラフの読み取りが難しいので、算数だけでなく社会や国語でも取り組んでいく。
図形の分野が難しい。公式の変形から、多様な問題が解けるように取り組んでいく。
計算など日常的に取り組んでいるのはよくできているが、あまり日常的に使わないものは反復練習が必要である。
問題を図に表すことができている。普段の授業の中で図に表して考えることを習慣化しているのでその効果が見られている。
チャレンジプリントで既習事項を振り返る機会を設ける。
チャレンジプリントの効果が出ている。これからも続けていく

○●理科●○

- (領域ごと)
- ① 物質 やや課題が残る結果であった
 - ② エネルギー 概ね良好な結果であった
 - ③ 生命 概ね良好な結果であった
 - ④ 地球 やや課題が残る結果であった

- (問題形式)
- ① 選択式 概ね良好な結果であった
 - ② 短答式 やや課題が残る結果であった
 - ③ 記述式 やや課題が残る結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

分析

2(3)(4)の活用問題で、図や提示された条件を見て、考える問題で、解こうとする意欲が見られる。
2(4)は全国平均より高くなっている。

基本的な実験器具の使い方や実験操作については理解できている。

記述式の問題が一問であり、その結果が思わしくなかったが、問題を読み、解く意欲は感じられる。

① 物質 水溶液に関する問題であるが、基本的なことは理解できている。ただ、最後の記述に関する問題ができていないので低くなっている。

④ 地球 川の流れに関する問題であるが、『予想』が正しいかどうかを問う問題であり、内容理解より図の理解、文章理解が難しかったようである。

授業では実験の予想、結果、考察を行っているが、学力問題を解くためには基本問題だけでなく、活用問題を解く機会を増やしていく必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

本年度は、過去数年の中で、国語B・算数Bで向上が見られた。これは、授業の中で考えることを取り入れた授業を継続的に行ったためと考えられる。

無解答率も減少傾向であるが、算数Aに関して図形問題の無解答率が高いが、最後の方に無解答が集中している。時間内に解けなかったか。時間配分も大事なことを伝える。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層(正答率80%以上)が増加傾向にあったが、今年度は横ばいである。また、学力低位層(正答率40%以下)も横ばいであった。エンパワー層(正答率20%以下)もばらつきはあるが、比較的少ない。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

作文や手紙など、文章を書くことを定期的に行っていく。長く書くことが難しい児童には文章構成を教え、スモールステップで書く力を伸ばしていく。

算数のチャレンジテストが効果を上げているので、国語についても大阪府教育委員会作成のプリントなどを活用し、毎日の取組みを進めていく。

① 研究授業・研修会

・教科学習、支援教育、人権学習など各学年1回程度の研究授業と研究発表の実施

② 授業づくり

・授業改善の視点の明確化と学習ルールの確立→【白川小スタンダード わかる授業づくり編】の実施、定着

・教材、教具の工夫→ICT機器の活用等

・国語科の授業改善(校内研究教科に指定)

・多様な意見交流の場の設定、共同学習の推進→主体的・対話的で深い学び

・分割授業、習熟度別授業の推進 ・個別指導と全体指導の両立

・体育授業の充実(運動量の確保と、技能を高め、楽しくて達成感を感じられる授業:体力向上プロジェクトとの連携)

・学年会・合同学年会の充実による授業研究の深化

・学習サポーターによる入り込みや個別支援の充実

③ 読書活動

・読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施 図書委員による読み聞かせの実施

・調べ読書の推進 ・家庭読書の推進 ・読書カード

④ 算数活動

・算数の学習事項の定着をはかるための、反復プリント学習

・毎日の計算など、全校で取り組み効果の上がっているものの継続。

⑤ 白川タイムの実施

・国語、算数を中心とした補充・発展学習

⑥ 家庭学習

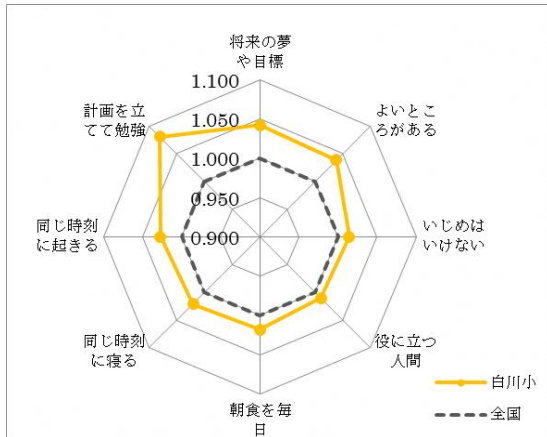
・【白川小スタンダード】学校だよりの発行、生活振り返りカードの実施による家庭への啓発

⑦【白川小スタンダード】の実施による生活規律、学習規律の確立

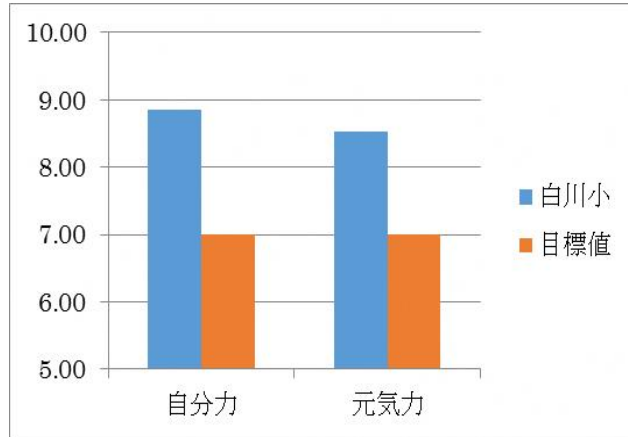
⑧意欲を喚起する授業、「楽しい！わくわくする、よくわかる」授業実践の追及。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

児童は落ち着いて授業を受けたり行事に取り組んだりできている。また、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組み学校全体を引っ張っていている。これは、『朝食を食べる』『同じ時刻に寝る』『同じ時刻に起きる』などの基本的生活習慣が確立され、安定した生活が送れている児童が多いためと思われる。

自尊心も高く、他者への思いやり、低学年への支援など楽しく、積極的な様子が見られる。

取組み

<ゆめ力>

- 「自分もやってみたい」というあこがれにつながる、本物との出会いの機会の設定
- 4年生の「二分の一人成人式」で、成長を振り返るだけでなく、未来の自分について考えさせる場の設定
- やり遂げた喜び、達成感を味わわせる取組み
- ・児童会活動・クラブ活動・運動会演技・応援団、校内音楽会、マラソン週間・大会、総合学習発表 校内作品展 等

<自分力>

- 『白川小スタンダード』の策定と浸透
- ・生活面や学習面の学校全体の課題を明確にして、教職員の共通理解の下で支援する。

<つながり力>

- 一人ひとりの子どもたちのつながりをつくる取組み
- ・教師が子ども一人ひとりのよさを知り、認め、学級全体に広める。
- 多様な意見交流の場の設定

<学び力>

- 楽しく魅力ある授業づくりに向けた校内研修の充実
- 支援教育の視点を踏まえた授業改善
- ・めりはりのある授業展開(簡潔な指示、声の大きさ、速さ、板書計画 等)
- ・学習意欲の喚起と継続(具体的活動・操作の活用、課題提示の工夫 等)・教材・教具の工夫(ICTの活用 等)

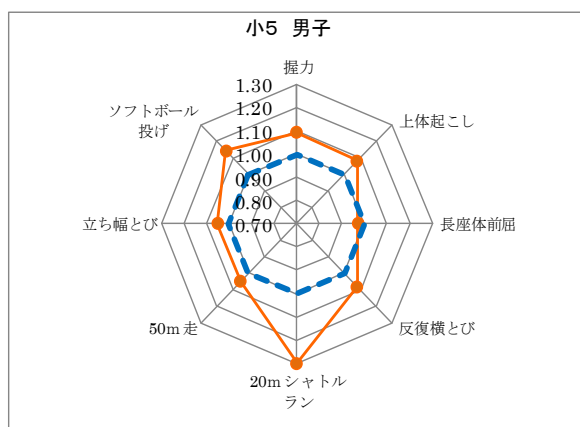
<元気力>

- 生活振り返り週間を学期1回行い、継続して規則正しい生活を送れるようにしていく。

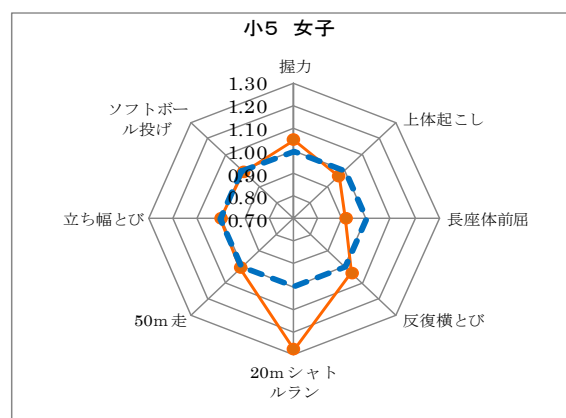
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

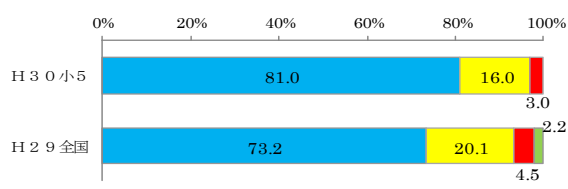
男子 (小5)



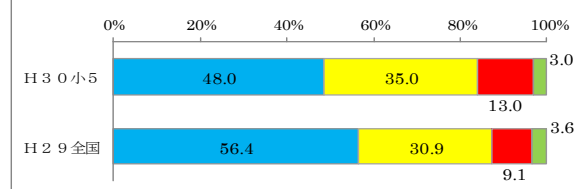
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・男子は長座体前屈が全国平均と比べて下回っているが、それ以外は上回っている。特に、20mシャトルランは大きく上回っている。
- ・女子は長座体前屈が全国平均と比べて下回っている。握力と20mシャトルラン、反復横とびは全国平均を大きく上回っている。
- ・運動やスポーツが好きですか？というアンケートには、好き・やや好きと答えた割合が、男子で97%、女子で84%ととても意欲的であるといえる。運動に対する積極的な姿勢や日常生活が、体力・運動能力の向上につながっていると考えられる。
- ・また、本校では、特に高学年の児童が朝の時間に運動場を走る姿をよく見かける。社会体育の陸上、野球、バスケットボール、サッカーなど、スポーツクラブに入っている児童も多く、25分休みにも運動場で遊ぶ姿がよく見られ、年間を通して運動に親しんでいると言える。

取組み

①授業づくり

- ・児童が主体的に運動に取り組む教材、場づくりの工夫
- ・振り返りカード、達成カードの工夫、活用(自らのめあててに向けた学習)
- ・体育館での授業の始めに、「茨木っ子運動」に取り組む(体育館専用プロジェクターの設置)
- ・各学年における年間カリキュラム、評価基準の作成
- ・体育委員会によるマットや跳び箱の事前準備

②体育的行事

- ・運動会、耐寒トレーニング・マラソン大会、連合水泳大会・連合運動会

③自ら体を動かす活動

- ・朝の時間を使った、6年生の陸上競技自主トレーニングの奨励
- ・ジャンピングボードの設置・増設(なわとびの奨励)
- ・マラソンカード、なわとびカード、てつぼうカードの配布